



11/6

#lovelilyambassador 金子吉進

今シーズンより初めて取り組まれた切り前、スタイルでの八重ユリ(写真はディアンサ)も綺麗に開花。

既存の八重ユリに市場 LA としての新たな八重ユリのプロモーション『美 Lily7034』を産地のご協力を元に推奨して参ります。



11/6

#lovelilyambassador 斑目茂美

「非常口はどこですか」私事で恐縮だが、我がお花屋さんの定休日は日曜日。さすがに週の終わりにはチョイと軽い「燃え尽き症候群」になりかける。すると無意識に目で追ってしまう花は決まって緑白(びやくるく)色のお花だ。白緑とは仏像、仏画の彩色に使われる白みおびた淡い緑色で、心穏やかになる優しい色だ。最近、そんな白緑と心洗われる真白との2色使いの花を見つけた。八重のユリ「ハンバー」だ。丸みのある小ぶりの蕾が開き始めると、みるみると芳香を放ち、美しく白い緑の花弁が開けば開くほど白緑色の花弁が見えてくる不思議なユリだ。



11/12

#lovelilyambassador 鳴床卓士

SNSでも八重ユリの露出が増えてきましたが、中でもこれは綺麗でつい目を奪われました。販売や生産をしていると職業柄花を見て何円になるかと考えてしまったりする話がよくありますが、この花綺麗だなと思う眼を大事にしていきたいです。

品種名: ウェーブライダー(八重)



11/14

#lovelilyambassador 齋藤正伸

他の花にはある色の多くが、百合の花にはない。もちろんその逆も然り。他の花にはないエレガントさエキゾチックさが百合の花にはある。百合が百合たる所以はあらゆる場面で強い存在感が示せることではないでしょうか。しかし昨今、求められるものはどんどん多様化し、常に新しい花や変わった花、個性的な花がめまぐるしいスピードでリリースされてはフェードアウトしています。そんなループが繰り返されるこの時代を経て、これから百合の花はどんな進化、どんな進歩を遂げるのでしょうか。

新しい時代に、求められる百合の花を古きよき日本の百合の美しさを



11/15

#lovelilyambassador 下條誇次郎

オリエンタルユリの生産において、3F以下の輪数のものが出来てしまうことはリスクと考えられています。市場価格が5Fより3Fが安価になる場合が多いからです。輪数を5F以上とし、ボリュームを出すことで高単価を目指します。この考えは多くの品種において、間違いはありません。でも地道に努力しても思うように結果が得られないことが多くはありませんか? 高単価のユリを追い求めることで、逆にユリの消費先をせばめてしまったのかもしれない。今後生産増が期待される八重のオリエンタルユリは「逆転の発想」も必要ですデザイン性が高く、他品目との調和もとれる『美 Lily7034』でユリの注目度を上げていきましょう。



11/16

#lovelilyambassador 平出賢司

もうすぐクリスマス。ユリの、ユリによる、ユリのためのリース! 栃木県宇都宮市でユリの生産とショップを開いています。



11/17

#lovelilyambassador 櫻井辰徳

市場で働いて八重の百合を始めて見た時の感動は忘れられません。正面から横からどこから見ても美しく咲いています。この感動を皆様に届けたいです。

八重百合『ディアンサ』



11/21

#lovelilyambassador 三浦竜

私の1番好きな百合「シベリア」私の百合担当の原点になった百合。昔ながらの品種で、皆に愛されて、根強い人気を誇る。

百合担当になって初めて販売したのもシベリア。

初めて産地連絡させていただいて、百合という花を好きにさせてもらったのもシベリアを沢山生産されている産地さんだった。

今でもシベリアを販売していると18年前の入社したての気持ちに戻れるような気がします。



11/23

#lovelilyambassador 馬場宏紀

昨日は「いい夫婦の日」でした。きっと愛を込めた花が贈られラブ注入が各地で繰り広げられたことでしょう。出逢った頃のような気持ちで、日本中がラブで満ち溢れることを祈っております。今日のユリは「ラブデイ」です。



11/25

#lovelilyambassador 小池一構

八重ユリ「ディアンサ」この品種の数ある魅力の一つに開花性の良さがあげられます。これから訪れる冬の寒さにも負けずに咲き誇ってくれるでしょう。

よく人に何でユリ生産者になったの?と聞かれますが答えは決まって「ユリが好きだから」

Lovelily Ambassador
www.lily-promotion.jp

November

Post on Facebook page

